

おるご〜る

No.
190

男女共同参画
わこうプラン推進委員だより

閩人権文化課 ☎424-9088

フランスに学ぶ

わこうプラン推進委員
湯川 博美

ヨーロッパの先進国で出生率が高いのはフランスで、2.0前後を維持している(日本は1.4)。フランスは子どもへの給付金が高いとする説があるが、調べてみるとそればかりではない。驚くことにフランスもつい半世紀前までは「女性は子どものために家庭にいたほうがいい」が主流だった。ではどこで変わったか。1968年の5月革命(民主化運動)の時、女子学生たちは裏方で発言力もなかったことに気づき、そこから女性解放運動が起こった。3年後には「私は中絶した」という雑誌特集に有名女優や作家も登場し国中がショックを受けた。避妊の宣伝・中絶は法律で禁止されていたが、この運動で女性は身体と性

の自己決定権を手に入れた。さらに数年の間に雇用の男女平等などが進み、これをマスコミも国民も応援した。

現代では「男は仕事、女は家庭」という考えは少なくなり、カップルの形も結婚以外に多様化(同棲、事実婚、同性婚など)した。それらは法的にも認められ女性が生きやすくなっている。今、日本では保育園不足が問題だ。フランスも同様だが、「保育ママ」「ヌヌ(ベビーシッター)」など保育の多様化で補っている。出生率が高い国は女性の労働率も高い。本来、女性が働きやすい環境づくりは、男女平等の重要な課題であり、日本も出生率を上げたいのなら、率先してこれに取り組むべきだ。

「男女共同参画苦情等処理窓口をご利用ください!」

「市の男女共同参画推進施策や男女共同参画の推進に影響を及ぼす施策への苦情」や「セクハラや男女共同参画を阻害する人権侵害の相談」をお受けします。

閩人権文化課 ☎424-9088